

# 学校だより



津市立櫛形小学校  
R6.9.17 発行  
第10号 文責：校長

## データから見る櫛形小学校 Part 1



1学期に実施した全国学力・学習状況調査の結果です。児童数が少ない本校は、一人当たりの正答・誤答の比率が大きくなります。つまり、一人正解すると正答率がぐんと上がり、一人誤答すると正答率はぐんと下がるということになります。そこで、少人数の学校においては、正確に全国・三重県と比較できる**中央値（学校で真ん中の児童の値）**で比べるとよいとされています。そこで、今年度は、**中央値**もお知らせします。



### 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

	国語		算数	
	平均正答率 (%)	中央値	平均正答率 (%)	中央値
櫛形小学校	61	9.0	69	12.0
三重県	67	10.0	62	10.0
全国	67.7	10.0	63.4	11.0

#### 【国語】

- 選択式の問題についてはおおむね正答率が高い傾向があり、全国の正答率を上回っている。
- 全国・県の中央値から1ポイント下回っており、国語力において課題が見える。
- 伝えることをまとめたメモの意図を読み取ることが難しい。何かを紹介する活動において目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することが難しい。
- 漢字の書き取りは、前後の文から判断して適切な漢字を書きとることが難しい。
- 主語として適切なものを選択する問題では、県・全国平均を大きく下回っており、主語・述語などの文法が定着していないと考えられる。
- 記述式になると正答率は下がる傾向にある。
- 「敬語についての問題」や「本文の内容からわかったことを自分の言葉でまとめる」問題では県平均を下回っている。

#### 【今後の国語における取組と授業改善】

- ・ペアやグループ活動で、文章を読み、課題解決する活動を取り入れる。(課題の例…間違った表現を見つけて書き直す。文章中の漢字を考える。○○語見つけ。)
- ・自分で作文する経験を積む。(条件付きの作文を書く・理由とセットで説明する。)
- ・調査・報告をする学習活動において、相手に自分の伝えたいことをより良い内容を届けられるように、メモや資料を意図的に作成し原稿を考える活動を行う。その際グループ活動を取り入れる。

## 【算数】

- 全国・県の中央値に比べ、1～2ポイント上回っている。
- 適切な式を選択する問題については、正解率が高く、和差に関しては定着できていると考えられる。
- 除数が10分の1になったときの商の大きさについて、「正しいものを選ぶ」問題では、大きく正答率が上回っており、割り算の性質が定着できていると考えられる。
- 見取り図や展開図について定着できていると考えられる
- グラフや表からデータを読み取る力が定着していると考えられる。
- 「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」問題では正答率が低いことから、情報がたくさんある問題での理由の説明や、「速さ」に関わる問題については、定着できていないと考えられる。
- いろいろな方向から考えるような思考を伴う図形の問題は難しい傾向がある。

### 【参考：正答が低かった問題】

- ・ **かなたさんの家・ほのかさんの家から学校までどちらも1200mです。家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、どちらが速いですか。そのわけを言葉や数を使って書きましょう。**
- ・ **五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。また、そのわけを底面と側面がそれぞれいくつあるのかがわかるようにして言葉と数を使って書きましょう。そのとき、「底面」「側面」の2つの言葉を使いましょう。**

### 【今後の算数における取組と授業改善】

- ・ ペアやグループ活動を取り入れ、情報量の多い課題を解決したり、理由を説明したりする学習を取り入れる。
- ・ 計算のくふう・速さ・・・などの定着不十分分野を洗い出し、普段から少しずつペア学習などで取り組む機会をつくる。

国語も算数も少し難しい条件の課題について、友だちと共に粘り強く解決したり、考えを伝え合うこと、また、友だちと考え合ったり、わかったことを文章で書く力をつけていけるよう、引き続き、ペア・グループ活動を取り入れた授業改善に努めます。



### 校長のひとりごと

子どもたちがホッと一息・・・できる場をつくりたいと思い、校長室前にソファとテーブルを置いて子どもたちが自由に集える憩いの場を作っています。図書室前の廊下ということで、「先生のおすすめの本」も展示し、ソファで座って本を読んだり、その本を借りたりしていけるようにもしています。

初めは、少しでも子どもたちが来てホッとしてくれたらいいな・・・という思いで憩いの場所をつくったのですが、いろいろな子が、そのとき、そのときの思いや気持ちで、集う場所になりつつあります。眠い時にソファに座って目をつぶって過ごす子。やり忘れた宿題をする子。気持ちを落ち着けるために座りにくる子。特に、最近では異学年で遊ぶ姿を見かけます。違う学年の教室には誘いに行きづらいけど、ソファに集合すれば一緒に遊べる！ということなのかもしれません。異学年でなかよく遊ぶ姿は、子ども数の少ない本校ならではの交流の姿です。

さらにグレードアップ!ということで、小さな水槽を置いてメダカを飼育することにしました。すいすい泳ぐメダカと水の音。心が落ち着きます。

